

広報

大船渡

市制施行

70周年
記念特集号

令和4年10月13日発行





大船渡市長 戸田 公明

雄大な三陸復興国立公園の代表的景勝地の一つである碓石海岸や、三陸沿岸の最高峰である五葉山など、美しい自然環境と比較的温暖な気候に恵まれ、水産と港湾、観光の振興を柱に発展してきた大船渡市は、本年、市制施行70周年の記念すべき年を迎えました。

顧みますと、平成13年11月の三陸町との合併は、本市の新しい時代を拓く大きな転機となり、合併建設計画のもとで、新生・大船渡市のまちづくりが進展しました。しかし、平成23年3月11日、本市をはじめ三陸沿岸各地は、東日本大震災大津波の来襲を受け、未曾有の被害に見舞われました。

その後、国内外から多大なご支援をいただきながら、幾多の試練を乗り越え、明るい未来への希望を失わず、市民の皆様と心一つにして復旧・復興事

業を進めることができました。ここに、関係各位に
対し、改めて深く感謝申し上げます。

令和の時代に入り、新型コロナウイルス感染症の
感染拡大に加え、ロシアのウクライナ侵攻に伴う原
油価格・物価高騰と、予想もしなかった事態が起こ
り、市民生活や企業活動などへの影響が長期化して
おります。

これらに加え、人口減少や少子高齢化の進行はも
とより、多様な分野におけるデジタル化や地球温暖
化対策など、様々な社会環境の変化に的確に対応し
ていかなければなりません。

今後、市では、市民の皆様とともに、生涯暮らし
続けられるまちづくりに全力で取り組んでまいりま
すので、皆様のなお一層のご支援、ご協力をお願い
申し上げます。

平成13
～22年

合併「新生・大船渡市」

新時代は、
ここから、はじまった

市民文化会館建設に係わる活動が、新市に一体感をつくり出していった

新生・大船渡市のまちづくりは、平成23年度（2011年度）までの10カ年を計画期間とする「合併建設計画」に基づき進められました。

数々の事業の中で、特に注目を浴びたのが、市民待望の市民文化会館でした。当初、市では、単独施設としての建設を構想していましたが、市民と設計者、市の三者によるワークショップを重ねる中で、市民文化会館と図書館が一体となった複合施設として建設することを決断。大船渡市と三陸町の合併から、ちょうど7年後の平成20年11月15日、市民文化会館・市立図書館が開館しました。

「みんなで市民文化会館を創る会」でスタートした市民の集いの場は、検討内容の変遷とともに、その後、プレイベントの企画・実施を担った企画運営委員会、そして、現在の自主事業実行委員会へと引き継がれています。

年表

平成

13年11月	新生・大船渡市誕生（大船渡市と三陸町が合併）
14年9月	大船渡・飛鳥クルーズ実施
14年10月	市制施行50周年記念式典開催
15年4月	大船渡商工会議所と三陸町商工会が合併
15年5月	三陸南地震（大船渡震度6弱）被害額26億4千万円
16年2月	「スネカ」が国の重要無形民俗文化財に指定
16年7月	新生・大船渡市漁業協同組合が誕生（末崎、大船渡、赤崎3漁協が合併）
17年3月	三陸縦貫自動車道・大船渡三陸道路全線開通
17年1月	民間企業16社が大船渡国際港湾ターミナル協同組合設立
18年1月	鷹生ダム完成
19年3月	大船渡港と韓国釜山港を結ぶ国際貿易コンテナ定期航路開設
19年10月	三陸大気球観測所が36年の歴史に幕を下ろし閉所
20年4月	大船渡東高校開校（大船渡農業高校、大船渡工業高校、高田高校商業科、広田水産高校家庭科を統合）
20年9月	新生・JAおおふなどが誕生（大船渡市農業協同組合と陸前高田市農業協同組合が合併）
21年5月	全国海の祭典「海フェスタいわて」東北初開催
21年7月	市民文化会館、市立図書館開館
21年11月	大船渡港永浜地区岸壁完成
22年2月	三陸鉄道「小石浜駅」が「恋し浜駅」に改称
22年7月	チリ沖で発生した大地震津波で養殖施設など4億円を超える大きな被害
22年10月	綾里診療所、歯科診療所新設開所
22年4月	綾里地区コミュニティ施設・綾姫ホール開所



盛・綾里両小学校の児童による「われは海の子」の歌声で、新しい歴史の幕開けを祝った

昭和27年4月1日、大船渡市が誕生しました。それから70年。長い歴史の最大の転機は、平成13年（2001年）11月の三陸町との合併。21世紀の幕開けとともに、本市の新しいまちづくりがはじまりました。

市民文化会館は、新しいまちづくりに挑戦させてくれた



やはぎ きよひで 清英 さん
(大船渡市民文化会館
自主事業実行委員会
委員長)

仲間とともに、市民文化会館独自のイベントを創り上げた

私は、三陸町越喜来の住民ですが、合併前から大船渡市の芸術文化協会と関わっており、新市に対して、あまり戸惑いはありませんでした。

市民文化会館建設のため、設計者と市、そして市民が話し合う機会があると知り、「会館を生かした新たなまちづくり」に関心を持ち、自主事業実行委員会の前身となる企画運営委員会の活動に参加しました。

市民文化会館が完成するまでに、この委員会によりプレイベントを4回開催、会館の完成後は、精力的に大小様々な事業を実施していきました。



自主事業実行
委員を募集し
ています！



大船渡市民文化会館・市立図書館の落成記念式典で万歳三唱をする出席者



図書館の児童書架は
図書を閲覧する子ども
たちで混み合った

平成23年

未来へ、
前を向いて、立ち上がった

大船渡北小学校避難所
では、食後、大量のお
椀を避難者が協力して
洗った

立根学校給食共同調理場では、地域住民が協力して各避難所に配るおにぎりを作った

年表						平成	3月11日
16日	15日	14日	13日	12日			東日本大震災発生
消防署及び消防団による救助活動							
海上保安庁の巡視船艇、航空機による搜索開始							
避難所の開設及び炊き出しの開始							
市内の国道45号の道路啓開及び搜索活動を開始							
保健師等による避難所を巡回しての保健活動開始							
社会福祉協議会が市役所玄関前に災害ボランティアセンターを開設							
自衛隊給水車による給水活動開始							
市内の国道45号の道路啓開が終了							
市役所本庁舎を含む、盛町の一部で電力が復旧							
国際救助隊（中国）が活動開始							
銀河連邦構成市町による支援開始							
国際救助隊（米国・英国）が活動開始							
岩手県知事による避難所の慰問							



市民一人ひとりが、協力し合い、それぞれの立場で前に突き進んだ

震災直後、沿岸各地に避難所が開設され、共同生活が始まりました。

平成23年3月11日午後2時46分、三陸沖を震源とする地震が発生。その後の大津波により、まちの姿が一変。それでも、市民は、被災直後から、震災前の生活やまちを取り戻そうと前を向いて立ち上がりました。

さまざまな避難情報や支援を求める人々であふれました。

被災を免れた地域では、炊き出しなどで被災住民を励ました。

大混乱の中、市民一人ひとりが、一日も早く以前の生活やまちを取り戻すため、お互いに助け合い、力を合わせ、突き進みました。

市役所市民ホールに張り出された避難者の安否情報

18日	被災者の入浴支援開始 一般家庭のし尿汲み取り開始
20日	障害車両の撤去・移動開始
21日	可燃ごみの通常収集開始 一部の地域から上水道の給水開始
24日	JAXAの支援により人工衛星を利用して、市役所本庁舎用インターネット回線を確保
28日	海上自衛隊による搜索開始
31日	臨時災害放送局「おおふなとさいがいエフエム」の開局
4月4日	市直営路線バス8路線の無料運行開始
6日	応急仮設住宅の入居申込み受付開始
7日	宮城県沖を震源とするM7.2の余震が発生（本市は震度6弱）し、市内全域で停電が発生
21日	市内小学校の入学式
22日	市内中学校の入学式
23日	応急仮設住宅入居開始
27日	災害義援金、被災者生活再建支援金などの申請受付開始
5月2日	固定電話、携帯電話が復旧（被災地域等の一部を除く）
6日	簡易水道が復旧（被災地域等の一部を除く）
7日	大船渡魚市場業務再開
27日	上水道が復旧（被災地域等の一部を除く）
6月4日	自衛隊第9音楽隊（青森駐屯地）による激励演奏
22日	太平洋セメント(株)大船渡工場での災害廃棄物の焼却処理開始
7月24日	自衛隊の帰隊セレモニー
27日	客船「飛鳥II」が入港
8月5日	皇太子同妃両殿下が被災地のお見舞いのため、本市訪問
28日	市内全避難所閉鎖
9月3日	大船渡市東日本大震災犠牲者合同慰霊祭を開催
10月31日	大船渡市復興計画を策定

県大船渡地区合同庁舎に設置された衛星
電話から、「無事」を伝えた

断水のため、冷たい川の水
で洗濯をした



オールハnz・ボランティアズは盛町を起点として活動し、地元の人との絆を深めた



岩手県立大学の企画・運営による「子ども復興会議」では、参加した中高生が、未来の大船渡市の姿を語り合った

様々な方々、団体、企業等の幅広いご支援が、復興の大きな力となりました。

鹿児島県の大隈半島4市5町復興支援チームは、大船渡市内の業者に「がんばっぺ！大船渡Tシャツ」を発注し、着用して支援活動を行った



震災直後から、自衛隊、警察、消防、海上保安庁等の関係機関に、米国をはじめとした国際救助隊も加わり、被災者の救出・捜索活動が行われました。

また、地元業者が一致団結してがれき撤去やライフラインの確保に取り組みました。

さらに、炊き出しや医療・保健活動、生活物資及び食料品の運搬・供給等のため、友好都市をはじめとした自治体関係者や、民間ボランティア、企業・団体関係者など、全国各地から駆けつけていただいた方々の励ましのおかげで、市民は再び立ち上がる勇気を持つことができました。

本市は、厳しい局面を支えてくださった、こうした方々との絆を大切にし、ご恩を忘れることなく、これからのまちづくりを進めていきます。

国内外の多大な支援の絆を、本市のまちづくりの生かしていく



がれきは、手選別と重機選別による一次選別をした後、現在の永浜・山口地区工業用地の二次選別所に運ばれた

災害廃棄物は、太平洋セメント株式会社大船渡工場を中心に処理されました。市民生活の再生に、多くの地元企業が貢献しました。



太平洋セメント株式会社
大船渡工場



猪川地区公民館に宿泊しながら復興支援に携わった派遣職員

猪川地区公民館や立根地区公民館は、派遣職員や学生ボランティアに宿泊の場を提供し、まちの復興をがっちり支えました。

国内外のボランティアの方々がまちの復興支援に尽くしました。



側溝の泥上げをするボランティア

地域主体の避難所運営で、避難者が一体となって頑張った



ただお 吉田 忠雄さん
(元赤崎地区公民館長)

リーダーとして、避難者に、安心感を与え、納得を得ることを心がけた

私は、震災当時、赤崎地区公民館の館長でした。3月11日の夜、漁村センターには300人程が避難していました。本来、避難所の運営は、行政が中心になって行いますが、市の職員から、「バックアップするから、地域の人が安心できるよう、吉田さんにリーダーの役割を担って欲しい。」と話され、引き受けました。まず、避難所の秩序を保つために、衛生、食料調達等の7つの係と、そのリーダーを決めました。各リーダーには自分の補佐役を5人選任する

よう指示し、祭り用の手ぬぐいで作った腕章を付けさせました。

12日の朝、避難者全員を集め、朝礼を行い、今後の避難所の運営体制について説明しました。それから、朝礼を欠かさず行いました。冗談を言って、なるべく皆を安心させるよう気を配ったり、その日の日程や支給される物品などについて丁寧に説明するなど、情報を共有することで皆が納得するよう心がけました。

「地域が役所を動かしているのだ」と思っ
て一体となった

避難所生活は、4か月にわたりましたが、大きな事故もトラブルもありませんでした。住民が主体となって避難所を運営して良かったと思っています。そうでなければ、何事も人任せにして、自分ではよく考えることもせずに、何か不満があったら役所のせいにしたかもしれない。けれど、私たちは、むしろ役所を動かしているのは地域だと思って、皆で頑張りました。

消防団は、一丸となって、捜索・警備活動に奮闘した



まさひろ 大田 昌広さん
(大船渡市消防団長)

県外の救援隊、国際救助隊の支援を受けて踏ん張った

震災当時、私は、消防団第2分団第1部の部長でした。消防団は、震災直後から生存者の捜索活動を行いました。私は、大船渡町内を声がけしながら歩きましたが、発見できた生存者は、お一人だけでした。多くのご遺体を発見し、その度に、警察に報告しました。私が所属した第2分団は、津波により、全ての消防屯所を失い、大船渡地区公民館を拠点とした活動を余儀なくされました。団員のなかには、家族を亡くしたり、自宅が被

災した人も少なくなく、精神状態は極限に近かったと思います。しかし、多くの団員がまちや人のために思っ
て活動しました。また、県外の救援隊や、国際救助隊が支援に来て、ともに同じ思いを抱いて活動してくれていることを励みに、踏ん張ることができました。

消防団は正義と勇気、そしてまちを愛する気持ちで活動している

消防団員は、正しいことを行う勇氣を持ち、自分たちの故郷を守る、「義勇愛郷」の精神で活動しています。私も、大船渡が好きで、まちの発展のために、地域を守らなければならぬと思っ
て活動を続けてきました。震災後は、特にその使命感に駆られました。消防団の指揮系統のもと、この緊急時に、即戦力として使命を果たし切ったことを誇りに思っています。



自衛隊とともに捜索活動をする消防団員



大船渡市消防団
公式ツイッター
※活動内容が確認できます



支援の医師に医療相談する避難者
避難所の入り口には、食事時間等の連絡事項が大きく書かれていた



漁村センターにあった祭り用手ぬぐいで作成した腕章
※避難した女性たちが手作りした

新 たなまちの姿を求めて

住みたいまちを目指し、
新しい活動がはじまった

まちに住む人たちも、まち並みも、災害公営住宅の完成、高台移転、住宅再建のための移転などにより大きく変化しました。
これからのようなまちを創っていくのか？
新しい活動がはじまりました。

年表

平成	24年3月	25年3月	26年3月	27年11月	28年3月	29年3月	30年3月	11月
	東日本大震災大船渡市追悼式開催	甫嶺小学校、崎浜小学校が越喜来小学校に統合	J R大船渡線（盛く気仙沼間）で、BRTによる仮復旧	陸中海岸国立公園等を再編し「三陸復興国立公園」に指定	大船渡港に国際フェリーコンテナ定期航路開設	三陸沿岸道路高田道路（陸前高田ICく通岡IC間）開通	三陸鉄道南リアス線全線（盛く釜石間）運転再開	新大船渡市魚市場供用開始
				三陸沿岸道路吉浜道路（三陸ICく吉浜IC間）開通	大船渡駅周辺地区第一期まちびらき開催	災害公営住宅が全て完成	大船渡港湾口防波堤復旧	主要地方道大船渡綾里三陸線小石浜く白浜地区トンネル区間開通
					赤崎小学校、蛸ノ浦小学校が統合し、新生・赤崎小学校開校	大船渡駅周辺地区第二期まちびらき開催	震災後初の海開き（越喜来浪板海水浴場）	大船渡市防災観光交流センター完成
							大船渡駅周辺地区第三期まちびらき開催	山村広場供用再開で、市内全スポーツ施設復旧完了



人生を豊かにする「楽しい育児」をサポートしたい



NPO法人こそだてシップ
スタッフのみなさん

※副理事の大村恵世さん
（写真 前列真ん中）から
伺いました。

助産師による妊娠時から産後、育児を繋げていく育児サポート

こそだてシップは、子育ての支援活動をするため、平成21年に地元の助産師によってスタートしました。震災後、避難所での妊婦や母子に対する支援が必要と感じ、本格的

に稼働、平成25年にNPO法人になりました。
妊娠時から産後、育児までを一貫してつなぐサポートを心がけています。
妊娠中の妊婦さん、お母さんの不安や困りごとの相談に応じるほか、産後のケア、子どもの遊び、親同士の交流や学びの場の提供などを行っています。

子育てをする人に寄り添い、見守り、支えたい

子育てのかたちは十人十色です。しかし、育児に関わる様々な情報を得て、そのとおりにいかない、不安を募らせる親御さんが多いように感じています。
母親も父親も、子どもと向き合い、多くの人と交流し、様々な体験をして親になっていくものです。だから、多くの人と交流し、多様な体験をしていただきたいと思っています。
また、共働き世帯が増えるなか、パートナーや家族の育児への関わり方も大切です。私たちは、子育てをする人

未来を見ずえた取り組みが、各地で動き出した

被災したエリアでは、地区ごとに復興に向け、今後のまちづくりのあり方を話し合う組織が立ち上がり、外部の専門家の助言もいただきながら、市と協働でまちづくり計画の策定に取り組みしました。

この過程において、自分の住むまちをどのようにしたいのかを本音で話し合うことで、

世代を越えて住民の相互理解が深まり、一体感の醸成につながっていきました。

また、こうした地区ごとの動きと並行して、震災以前からの課題である少子高齢化の進行への対応や、市内で最も大きな被害を受けた、JR大船渡駅周辺地区を核とした中心市街地の再生など、多くの支援者のご支援、ご協力により、復興への足音を確かにする多様な取り組みが徐々に見られるようになりました。



三陸町越喜来浦浜・泊地区まちづくり委員会



こそだてシップHP



盛町サンリアショッピングセンター内2階にある「すくすくルーム」では、随時、様々な講座やイベントを実施

地域の誰もが活用できる「居場所」を創り、守っていききたい



鈴木 軍平さん
(NPO法人・居場所創造プロジェクト 理事長)

地域住民のニーズを
考えて、催事などを
企画・運営している

NPO法人・居場所創造プロジェクトは、高齢者が頼りにされ、様々な世代の人たちをつなぐ存在になることを目指し、地域住民が中心になって運営しています。

活動は、カフェ運営を基礎に、憩いの場の提供と地域環境向上のための取り組みを「居場所ハウス」を拠点に行っています。

スタッフは、行事の企画・運営のほか、それぞれの得意分野を生かし、調理や農作業等に携わっています。保育士や教員経験者による、子どもの見守り活動、遊び場の提供

なども行っています。

催事内容は、居場所ハウスの利用者の声を参考に、毎月、定例会議で決定しています。長年統一している朝市や健康サロン等は、この会議により生まれた人気の催しものです。

また、社会福祉法人のバスを借り、無料で行っている買い物送迎バスの運行も、地域住民の「車を運転できない」、「バス停や駅から自宅まで距離がある」という声から企画し、取り組んだもので、利用者から好評を得ています。

地域住民とスタッフが
が生き生き活動する
「居場所」を守る

復興期間を経過し、資金とスタッフの確保等、運営面での苦労があります。

しかし、スタッフが各々の得意分野で生き生きと活動し、また、地域の人が居場所ハウスに集まり、賑やかに楽しんでいるのを見て、少しずつこの場所が、地域の人のための「居場所」になっていると実感しています。

だから、この居場所を守り続けたいと考えています。

常に次世代につなぐことを考え、
遺憾なく地力発揮できる街に



千葉 隆治さん
(株式会社キャッセン大船渡プロデューサー)

中心市街地の核の賑
わい創出を担うまち
づくり会社

キャッセン大船渡は、震災で被災した大船渡駅周辺地区の持続的な賑わい創出や景観保全、商業の活性化などの「エリアマネジメント」を担うまちづくり会社で、官民出資のもと発足しました。主な役割は、都市再生推進法人として、9つの街区の事業者様からの資金を活用した、エリア内の建物壁面、植栽、サインなど景観の統一化と維持管理、エリア全体の誘客やプロモーション活動などによるまちの活性化です。このほか商業施設の整備運営も担っています。

これからのまちづく
りを担い、関わる人
づくり

さらに「大船渡まちもり大学」を大船渡市民活動支援センターとともに設立。高校生も積極的に参画する形で、まちに活力を生む活動にトライしています。進学などで離れても未来の担い手がまちに関わりたと思う「入口づくり」を続けていきます。

商業施設の店主さんらと対話すると、震災前から培った経験の豊かさに触れることも多く、世代のつなぎ合わせも大切だと感じます。

震災から10年が経過し、



青年会議所とまちもり大学に参加している高校生の共催によるイベント「ウォータースプラッシュ」

人口減少が進み関係人口も一層重要となる中、「大船渡だから関わる」との思いを抱いてももらえるように挑戦と検証を重ねていきたいです。「まちの地力」を遺憾なく発揮できるように、常に次世代へのバトンの継承を念頭に取り組んでいきます。



株式会社キャッセン大船渡HP
※「防災×観光」をゲームにした「あの日」もチェック！



毎週水曜日に開催されている「居場所健康サロン」
体操や脳活ゲームの後、お茶を飲みながら楽しく語らう参加者



NPO法人・居場所
創造プロジェクトHP

何年先までも、ずっと

ともに、創ろう！
住み続けられる「大船渡」を

地区で安心して暮らすためには、
人と人の繋がりが重要



とみかつ 村上 富勝さん
(ひころいち町まちづくり推進委員会 事務局長)

地区全体で話し合い、
「まちづくり推進委員会」を立ち上げた

日頃市町では、令和元年から、住民みんなで、地区の将来を考える研修会や説明会を行いながら、地区全体の話し合いを進めてきました。そのなかで、住民が安心して暮らしていくために、人と人の繋がりを深めることが重要と考え、昨年、「ひころいち地区づくり計画」を策定し、計画を実践する「ひころいち町まちづくり推進委員会」を設立しました。

計画策定のため、町内13地域から3人を選出してもらいました。その内1人は公民館

人口減少や少子高齢化が進行するなか、いかに魅力的なまちづくりを進め、持続可能なまちを創るかが大きな課題です。

本市では、これまでの復旧・復興事業での成果や、多くの人々との絆をもとに、市民と地場企業、各種団体など一体となって、日常生活の安心・

やすらぎに包まれた
暮らしの中で、活気
あるまちを創る

年表

令和	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
5月	10月	3月	3月	4月	6月	9月	10月	11月	11月	12月	12月	12月
大船渡市ILC推進協議会設立	住田町と定住自立圏形成協定締結	越喜来中学校、吉浜中学校、日頃市中学校が閉校し、第一中学校に編入	新型コロナウイルス感染症対策室設置	旧甫嶺小学校を利活用し、甫嶺復興交流推進センター開所	大船渡港港湾緑地・みなと公園開園	復興記録誌発行	大船渡港港湾緑地・茶屋前緑地開園	赤崎中学校、綾里中学校が統合し、東朋中学校開校	東京2020オリンピック聖火リレー開催	千石船気仙丸をおおふなぼーと付近に陸上展示	漁村センターを改修した防災学習館運用開始	大船渡アスリート応援団発足
												三陸沿岸道路全線開通



地区が持続していく
ために、今やれるこ
とをやらなければなら
ない

主事で、他の2人は、これからまちを担う50歳未満の人としました。

はじめは、皆、やらされているという感じでしたが、専門スタッフが加わり、部会に分かれて話し合うようになってからは、活発に意見が出るようになりました。

各部会ごとに様々な活動を予定していましたが、昨年度はコロナ禍で、あまり実現しませんでした。

今年は地区の文化祭と日程を合わせて、「軽トラ市」を開催する予定です。はじめてで不安はありますが、地区の人たちが、顔を合わせる良い機会としてぜひ開催したいです。これからは地区が続いていくためには、地区の人同士が助け合っていかなければなりません。そのために、今、人と人の繋がりをつくる活動をしていると思って、一つずつ取り組んでいきたいです。

安全がしっかりと確保されたやすらぎあるまちづくりを進めます。それと並行して、協働のまちづくりの推進、地場産業の振興、観光客の誘致や各

地域の人の見守りと挨拶が、安心とやる気を与えてくれる



ゆうか 和野 友奏さん
(猪川小学校 6 学年)

高学年は低学年を見守り、地域の人は子どもを見守って、安心の集団登校

私は、毎朝、集団登校をしています。班員は10名で、学校まで1列になって、15分から20分かけて歩いていきます。列が長いので、高学年の私たちは、低学年の子が列をはみ出さないか、歩く間隔が開

き過ぎないかと、気を配っています。

学校の坂の下には、いつも緑色のベストを着た方（交通安全母の会）が立っていて、登校する私たちを見守ってくれているので安心します。

そして、「おはよう」とか、「いってらっしゃい」と挨拶をしてくれます。それを聞くと、「今日も頑張ろう！」と思います。



環境部会が行った五葉山登山
参加者は、日頃市中学校の生徒時代に経験した五葉山清掃活動の思い出などを語りながら、楽しく山頂を目指した

工夫をしながら、より良いものをつくることを目指す



佐藤 璃久さん 小坪 竜大さん 野田 勇志さん
(吉浜養殖研究会会員)

友達・先輩の存在が、
漁業に従事することを
決意させた

（小坪） 私たちは、皆、家族
経営でホタテとワカメの養
殖をしています。小さい頃
は、漁業を継ぐ気持ちがあ
りませんでした。テレビ
で漁師の特集を観て、気持
ちが変わりました。高校卒

業後、まず漁協の定置網漁
船に乗り、ロープの結び方
等、漁業に必要な基礎知識
を学びました。

（佐藤） 私は、東京の大学で
学び、就職先も決定してい
ましたが、祖父が高齢化し
てきたこともあり、いつか
漁業をするなら、今すぐに
やろうと考えました。悩
みましたが、最終的には、
彼（小坪さん）が先に漁業
をやっていたことが大きか
ったです。彼がいなかった
ら別な仕事を選んでいたか
もしれません。

（野田） 私は、この二人が先
に漁業をやっていたけれど
から、自然と漁業をやろう
という気持ちになりました。

漁業は自分がやった
だけ成果がでるとこ
ろが面白い

（佐藤） 海の状況は、その年
によって違います。続けて
いくためには、色々な工夫
が必要です。

（小坪） 前の年より良いもの
を、多くつくるために頑張
っています。他の漁業者の
やり方を聞き、工夫しま

す。地道に、だけど、今年
よりは来年良いものをつく
れるように頑張ろうと思っ
ています。

シングルシードという方式
の養殖試験です。新しいこ
とを試す発想の転換も必要
なのかもしれません。そし
て、漁業は、とにかく同じ
作業が続きます。ただ、自
分がやっただけ成果がでる。
それがサラリーマンとは違
う一番の魅力で、面白いと
ころです。



養殖中のホタテの稚貝から、付着した海藻などを取り除く作業をする
小坪さん

三陸沿岸を県北から県南まで、
夏イチゴ生産地として繋げたい



太田 祐樹さん
(株式会社リアスターファーム 取締役)

三陸沿岸道路が全線
開通したことにより
販路拡大が実現

私は新潟大学大学院自然科
学研究科で学び、農学博士を
取得しました。その後、岩手
県の任期付き研究員として、
陸前高田市でイチゴの周年栽
培について研究し、平成30年
に当社を設立しました。

イチゴは暑さに弱く、通常、
12月から5月にかけての冬春
採りか、7月から11月までの
夏秋採りでしか栽培できませ
ん。しかし、当社では、三陸
沿岸部の涼しい気候を生かし、
一年中イチゴを栽培、提供す
ることを実現しました。国
産のイチゴが不足する夏場に
も安定供給できるのが魅力で

す。これにより、三陸沿岸を
県北から県南まで、夏イチゴ
の生産地として繋げ、最終的
には、国内イチゴ生産量一位
の栃木県を超えたいです。
イチゴは傷みやすいので、
収穫後すぐに冷蔵して、出荷
しなければなりません。三陸沿
岸道路の開通で、仙台まで短
時間で運ぶことができるよう
になったことが、コストを抑
え、販路を拡大することに大
いに役立っています。

イチゴを活用する人
や企業と連携して、
地域を活性化したい

夏イチゴの生産量を増やし、
次は、このイチゴを誰かに活
用して欲しいと思っています。
例えば、お菓子作り教室のよ
うなことでも、当社と一
緒に、何かをやってみたいと
思う人や企業があれば連携し
たいです。

それが地域の活性化に繋が
ると思います。小さな連携か
ら、イベントの開催や小売り
販売、商品開発など大きな連
携に繋がっていけば、もっと
地域を元気にすることができ
ると思っています。

収穫したイチゴは、主にケーキ等
のお菓子に使われている。



気仙杉を利用した木骨ハウスは、熱の吸収抑制に優れ、
イチゴ栽培に最適



株式会社
リアスターファームHP



市章
美しい山々と豊かな海に囲まれたまち、大船渡。市章は、大船渡の「大」の字を波と山でデザイン化しました。
(昭和27年12月25日告示)



市の花・つばき



市の木・まつ



市の鳥・うみねこ

大船渡市

大船渡市民憲章

わたくしたちの大船渡市は、三陸の美しい自然のなかで、先人のたゆまぬ努力により、恵まれた港を中心に発展してきたまちです。わたくしたちは、このかけがえのないふるさとを受けつぎ、市民としての自覚と誇りをもって、明るく豊かな未来をひらくため、ここに市民憲章を定めます。

- わたくしたちは
- 一 学ぶ心を大切にし、
 - 一 香り高い文化のまちをそだてます。
 - 一 働く喜びをもち、
 - 一 健康で活気あるまちづくりにはげみます。
 - 一 明るい家庭をつくり、
 - 一 希望と安らぎのあるまちをきずきます。
 - 一 社会のきまりを守り、
 - 一 安全で住みよいまちづくりをめざします。
 - 一 恵まれた自然を生かし、
 - 一 海と緑の美しいまちをつくりまします。

(昭和58年6月1日制定)
(平成14年9月4日改正)

- 交通安全都市宣言(昭和60年9月10日制定)
- 非核平和都市宣言(昭和60年9月10日制定)
- 福祉都市宣言(昭和61年9月12日制定)
- 暴力追放都市宣言(平成元年12月22日制定)

大船渡市民歌

- 作詞 鈴木 昭司
作曲 林 芳輝
- 一 暁の 遙かより
打ち寄せる波 生命かがやく
ああ 大船渡
三陸の 恵みを謳おう
響きあう 入り江の幸を
一つに紡ぎ 明日を語ろう
五葉から 岬へと
行きわたる水脈 生命はめぐる
ああ 大船渡
三陸の 自然を謳おう
いにしへの 大地の上に
新しきまち 明日を拓こう
船しげき 港湾より
託される夢 生命ははたく
ああ 大船渡
三陸の 未来を謳おう
歓びに 町並み弾む
力を合わせ 明日を築こう
(平成14年9月25日告示)

大船渡の魅力を紹介・発信して、ファンを増やしたい



佐々木イザベルさん
(観光ガイド)

ボランティア活動で
関わった大船渡の復興
が見えたかった

私は、フランス出身で、大学卒業後に来日し、東京都内の会社に勤めていました。東日本大震災後、オールハズ・ボランティアズの一員として、大船渡の復旧活動に従事し、その後も、定期的にボランティア活動に参加するなかで、今後、大船渡がどのように復興していくのかを見届けたいと思うようになりました。

大船渡の人は、地元の良さを、もっと子どもたちに語ってほしいと思います。子どもは、大人の話を素直に受け止めます。だから、ここは何でもある素敵なところだということ伝えるべきです。

SNSの活用・観光ガイドにより、国内外に大船渡の魅力を発信



小石浜漁港で、ツアー客に大船渡の魅力をガイドをするイザベルさん



大船渡市市制施行70周年記念式典において、令和4年度市政功労者表彰と、東日本大震災からの復興や円滑な市政運営にご支援いただいた企業、団体、個人及び自治体等に感謝状の贈呈を行います。

令和4年度 市政功労者

（地方自治功労）

和野多喜夫（大船渡町）
新沼孝子（大船渡町）

（産業功労）

門田崇（盛町）
新沼湧一（日頃市町）

（民生功労）

木ノ下見道（日頃市町）
千葉大三郎（立根町）
滝田有（末崎町）
工藤恵市（大船渡町）

（治安功労）

中村亨（三陸町越喜楽）

感謝状

（企業・団体等）

一般社団法人RCF、愛知県モラロジー協議会、認定特定非営利活動法人愛知ネット、株式会社インフアーマシーズ、アサヒグループホールディングス株式会社、ADBO AT JAPAN合同会社、株式会社アマタケ、アローリンクス株式会社、学校法人安城学園、株式会社イトーキ、社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会、岩手大学、株式会社インデックスコンサルティング、宇宙航空研究開発機構、浦和ロータリークラブ、SB I いきいき少額短期保険株式会社、株式会社エニシ、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社、株式会社NTTDコモ、大阪北ロータリークラブ、認定特定非営利活動法人大阪自然史センター、株式会社大阪取引所、オーシヤンネットワークエクスプレスジャパン株式会社、大船渡市大船渡実行委員会、大船

渡五葉ライオンズクラブ、大船渡ライオンズクラブ、大船渡ロータリークラブ、大船渡西ロータリークラブ、一般社団法人オールネーションズ、かとうまさゆき写真事務所、公益財団法人加藤山崎教育基金、カリタス大船渡ベース地ノ森いこいの家、川崎汽船株式会社、学校法人北里研究所、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、株式会社キャリアリンク、京都大作戦、キリンホールディングス株式会社、株式会社クリエイティブバンク、公益社団法人経済同友会、碓石海岸で囲碁まつり実行委員会、碓石給食株式会社、神戸大学大学院人間発達環境学研究科 松岡広路教授、国際ロータリー第2520地区ガバナー事務所、国立科学博物館、特定非営利活動法人国境なき技師団、特定非営利活動法人国境なき子どもたち、在札幌米国総領事館、さいとう製菓株式会社、在日クウェート国大使館、在日陸軍音楽隊、株式会社佐賀組相模女子大復興支援学生ボランティア委員会、相模原商工会議所、相模原ロータリークラブ、サッポロホールデイン

グス株式会社、The North Journey、公益財団法人さわやか福祉財団、株式会社産業経済新聞社大阪本社、資生堂ジャパン株式会社、特定非営利活動法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク、XUXU、株式会社シュゼット・ホールディングス、頌栄女子学院、商船三井客船株式会社、株式会社情報通信総合研究所、スズキ株式会社、鈴与海運株式会社、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ニュースキンジャパン株式会社、全国共済農業協同組合連合会、一般社団法人全国優良石材店の会、洗足学園中学高等学校、ソフトバンク株式会社、ダイハツ工業株式会社、太平洋セメント株式会社、大和リース株式会社、株式会社地域活性化総合研究所、チェコ共和国大使館、特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン、株式会社中国新聞社、東海大学スチューデントアチーブメントセンター、東京世田谷南ロータリークラブ、東北大学災害科学国際研究所、有限責任監査法人トーマツ、トヨタグループ、豊田

合成株式会社、トヨタ自動車株式会社、株式会社豊田自動織機、公益社団法人24時間テレビチャリティ委員会株式会社テレビ岩手、日光東照宮、公益社団法人日本技術士会、日本クルーズ客船株式会社、公益社団法人日本国際民間協力会、公益財団法人日本さくら会、公益財団法人日本サッカー協会、日本司法支援センター、一般社団法人日本ツバキ協会、認定特定非営利活動法人日本都市計画家協会、日本プロ野球選手会、一般社団法人日本野球機構、沼津夏まつり実行委員会、特定非営利活動法人熱気球運営機構、橋爪商事株式会社、株式会社はとバス、駐日ハンガリー大使館、東日本旅客鉄道株式会社、被災地へピアノをとどける会、兵庫県立人と自然の博物館、フェリス学院大学音楽学部、富士ソフト株式会社、復興大船渡・全国ちんどん祭り実行委員会、一般財団法人ポケモン・ウィズ・ユー財団、ホシザキ東北株式会社、有限会社毎日元氣、株式会社マイヤ、南カリフォルニア日米協会、箕面自由学園高等学校、宮川大助・花子、みんなのし

るし合同会社、明治大学、明治大学サービス創新研究所所長 阪井和男、明治大学文学部 平山満紀教授 平山ゼミ一同、Youth for of funato、郵船クルーズ株式会社、LOVE CT、立命館大学、一般社団法人倫理研究所

（個人）

家田仁、石原成昭、（故）伊藤英之、鶴浦真紗子、小笠原満男、岡田直子、（故）岡本行夫、小松正之、佐藤隆雄、澤田雅浩、塩崎賢明、志田豊繁、上村龍三、上村敦子、長坂俊成、納見謙一、濱守栄子、ペーダージョンストンパトリシア、堀籠義裕

（自治体）

熱海市（静岡県）、厚木市（神奈川県）、伊豆の国市（静岡県）、泉大津市（大阪府）、岡県、泉大津市（大阪府）、泉佐野市（大阪府）、板橋区（東京都）、伊東市（静岡県）、犬山市（愛知県）、岩手県、宇部市（山口県）、奥州市（岩手県）、大崎町（鹿児島県）、沖縄市（沖縄県）、神奈川県、金ケ崎町（岩手県）、鹿屋市（鹿

児島県、鎌倉市（神奈川県）、軽井沢町（長野県）、北上市（岩手県）、肝付町（鹿児島県）、錦江町（鹿児島県）、国立市（東京都）、鴻巣市（埼玉県）、神戸市（兵庫県）、越谷市（埼玉県）、御殿場市（静岡県）、相模原市（神奈川県）、佐久市（長野県）、佐倉市（千葉県）、鯖江市（福井県）、山武市（千葉県）、志布志市（鹿児島県）、周南市（山口県）、曾於市（鹿児島県）、大樹町（北海道）、高崎市（群馬県）、垂水市（鹿児島県）、千葉県、東京都、富岡市（群馬県）、長久手市（愛知県）、沼田市（群馬県）、能代市（秋田県）、函館市（北海道）、浜松市（静岡県）、東浦町（愛知県）、東串良町（鹿児島県）、藤沢市（神奈川県）、北海道、三重県、南大隅町（鹿児島県）、最上町（山形県）、盛岡市（岩手県）、横須賀市（神奈川県）、和光市（埼玉県）、稚内市（北海道）

（敬称略）



※表紙・裏表紙の写真撮影協力：盛こども園

一編集・発行一

大船渡市企画政策部秘書広報課

〒022-8501 岩手県大船渡市盛町字宇津野沢15

☎0192⑦3111 ☎0192⑥4477

ホームページ＝<https://www.city.ofunato.iwate.jp/>

Eメール＝ofunato@city.ofunato.iwate.jp

市では、SNSで情報発信をしています



市公式LINE
友だち追加



市公式
フェイスブック



市公式
ツイッター



市公式YouTube
チャンネル



「広報大船渡」は、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙と植物油インキを使用しています。